1日1円保険（新潟県交通災害共済組合）は横村さんも、田中さんも鶴間さんも入っててよかった。

＊1日1円保険とは…安い掛金で助け合い

2月上旬に各家庭に申込用紙を配布します

1日1円保険とは新潟県交通災害共済組合の事業で、〝安い掛金で多くの人を交通事故から助けよう〟と昭和43年に発足し、今年で18年目になります。黒埼町の加入者は昨年4月で15,467人で加入率は69.8％と町民10人に7人が入っています。

現在の加入者の期限は3月31日で切れますので、ぜひ継続手続きをしてください。また、加入していない人は家族全員で加入することをお勧めします。

掛金は1人年間350円で、見舞金は2万円から100万円まで9段階に分かれています。昨年12月31日現在で掛金の総額は530万円で見舞金を284万円支払いました。また、加入されると1人につき30円が所属自治会に支払われ、地域のためにも役立ちます。

▶申し込み…2月上旬に各家庭に申込用紙を配布します。
▶問い合わせ…役場総務課交通係☎377－3101

＊声・横村ハツさん（68歳・新町）――自転車で車に衝突

去年の九月に自転車で買い物に行こうと小路から大通りへ出たとき、自動車とぶつかってしまいました。幸いケガはそう重くなかったし、一日一円保険から四万円頂きました。五年ほど前に自転車で電柱にぶつかり、あとで一日一円保険がきいたと知りまして今回はすぐ申請しました。

＊声・田中ノブさん（75歳・鳥原新地）――百四十日間の入院

おととしの暮れに歩いているときうしろからきた車と接触し、百四十日ほど入院してしまいました。夕方でしたので暗くて、わたしももっと気をつければよかったんでしょうが、事故は怖いですね。一日一円保険はずっと入ってまして、そのとき、十五万円保険からおりました。

＊声・鶴間多美子さん（41歳・焼鮒団地）――同乗した車が事故

事故といっても同乗した車がバックしてぶつかってしまい頸部をねん座しただけなんですが、六万円頂きました。最初、一日一円保険の対象外だと思っていたんです。そしたらお医者様から対象ですよと教えていただいて。助かりました。実はおととし入ったばかりだったんです。

＊加入状況…10人に7人は入っています

昨年の加入者は15467人（22172人中）で加入率は69.8％です。（4月28日現在）。前年より573人増えています。下表は自治会別の加入率です。なお、県平均加入率は70.5％、郡は86.9％です。

自治会別加入状況（61年）

自治会名	人口	加入者名	加入率	順位	自治会名	人口	加入者数	加入率	順位
金巻	329	292	88.8		善久東	624	414	66.3	
興野一区	410	301	73.4		善久中	602	406	67.4	
興野二区	453	342	75.5		善久西	372	217	58.3	
興野三区	414	285	68.8		上山田第1	594	295	49.7	
興野四区	357	242	67.8		上山田第2	574	357	62.2	
中学通り	764	555	72.6		上山田第3	464	244	52.6	
新町	383	294	76.8		上山田第4（山田温泉含）	318	184	57.9	
諏訪町	605	489	80.8		下山田	236	171	72.5	
二之町	180	132	73.3		小平方	301	258	85.7	
五区	294	259	88.1		鳥原新田	348	219	62.9	
仲町	158	122	77.2		板井一	298	272	91.3	
七区	271	226	83.4		板井二	227	202	89.0	
八区	457	388	84.9		板井三	210	172	81.9	
新田町	501	322	64.3		板井四	414	338	81.6	
栄町	165	110	66.7		木場川前	347	247	71.2	
川原	176	125	71.0		木場上組	500	396	79.2	
鳥原新地	387	312	80.6		木場下組	517	358	69.2	
鳥原本村	894	638	71.4		木場八割	535	314	58.7	
鳥原大明	823	468	56.9		木場新田	513	310	60.4	
蓮方団地	450	339	75.3		黒鳥一	251	230	91.6	
柳作	789	520	65.9		黒鳥二	157	154	98.1	2
立仏	1,067	655	61.4		黒鳥三	144	131	91.0	
焼鮒団地	512	172	33.6		黒鳥四	255	237	92.9	3
寺地本村	517	321	62.1		黒鳥五	202	176	87.1	
寺地中	452	322	71.2		緒立	118	117	99.2	1
寺地下	374	216	57.8		北場	250	230	92.0	
寺地団地	619	371	59.9		合計	22,172	15,467	69.8	

＊見舞金…2万円から100万円まで

見舞金は下表のとおり1等級（死亡100万円）から9等級（治療日数7日以上）までであり、昨年は284万円（件数40件）支払いました。

等級	災害の程度	金額（万円）	町該当者
1	死亡した場合	100	1
2	自賠責施行令別表の等級区分の1級各号に掲げる傷害の場合	70	0
3	治療を要した期間が6月をこえ、かつ、入院30日以上を含む実治療日数90日以上のもの	15	2
4	治療を要した期間が5月をこえ、かつ、入院21日以上を含む実治療日数75日以上のもの	12	0
5	治療を要した期間が4月をこえ、かつ、入院14日以上を含む実治療日数60日以上のもの	10	1
6	治療を要した期間が3月をこえ、かつ、入院7日以上を含む実治療日数45日以上のもの	8	2
7	治療を要した期間が2月をこえ、かつ、入院通院の実治療日数30日以上のもの	6	8
8	治療を要した期間が1月をこえ、かつ、入院通院の実治療日数15日以上のもの	4	14
9	入院通院の実治療日数7日以上のもの	2	12

第2回

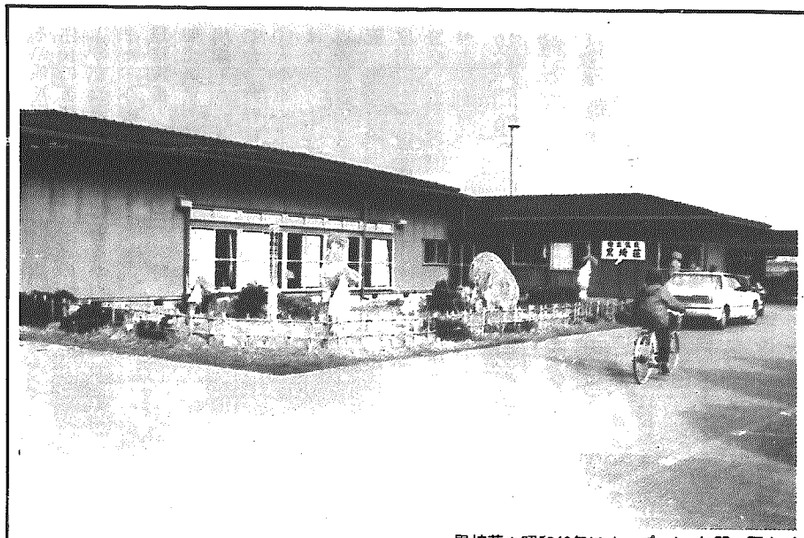
黒埼町の今昔

町史編さん課

緒立温泉を訪ねる㈣

共同浴場が老朽化し、昭和四十六年

黒埼荘に緒立の湯が引き継がれる



黒埼荘：昭和46年にオープンし、年間4万人が町内外から訪れる

昭和四十年代に入り湯治客が減少し、存亡の危機

昭和四十年代に入ると緒立温泉の湯治客が減少し始めた。それは、施設の老朽化や各地で自治体が老人保養施設を建設し始めたことが原因と思われる。

昭和二年に建てられた共同浴場は大規模な改修が必要になっていた。黒鳥部落ではその財源のメドが立たなかった。

昭和四十三年、黒鳥総代驚尾賢治は役員らとともに緒立温泉の継続を真剣に考えた。部落民の大半は先祖からの緒立の霊水を守ることには賛成だが、順番に回ってくる湯銭取りの仕事を少々やっかいだと思っていた。それでも、なんとか続けていくことが決まった。

まず湯治場改築の基金は、町内各部落や近隣町村への献穀願い（米のほうが）に頼ることにした。一升、三升、五升入れの献穀袋を持って黒鳥の人たちは、新通り、亀貝、小新など（新潟市）から回り始めた。町内の木場、板井、鳥原へは役員が腰弁当で回った。大野や農家以外からは金銭の寄付を仰いだ。

また、一日も休めない湯治場は、暫定的に原泉井にいちばん近い大黒屋旅館の浴槽を借りることで解決した。これは二年ほど続いた。

献穀回りは四十三年から翌年にかけて続けられたが、日増しに湯治場経営の難しさが感じられた。事実上、再建は断念された。

昭和四十六年、老人憩の家・黒埼荘が完成

そんな矢先、町に老人の保養施設として「老人憩の家・黒埼荘」建設のニュースが知らされた。ぜひ緒立にと黒鳥部落は役場に陳情し、誘致運動に乗り出した。各部落へも回って頼んだ。そして、黒埼荘は緒立に決定した。

しかし、黒埼荘の浴槽に使う水は水道水で緒立の鉱泉ではないとのことだった。そこでまた陳情が始まった。町内から多くの人の署名も得、陳情書が役場に提出された。この結果、昭和四十六年に完成した黒埼荘には男女ともに浴槽が二つずつ作られた。大きな方には水道水が、小さな方には緒立鉱泉の霊水が入った。

ところが、思いがけないことが起きた。黒埼荘の利用者はほとんど小さな方、すなわち緒立の湯に入ったのである。結局、大きな浴槽に霊水が入った。間もなく小さな浴槽は廃止され今では休憩室になっている。

町内外から年間四万人の利用者、黒埼荘

佐藤一郎（北場）が驚尾豊二（黒鳥）に代わって黒埼荘の管理人になったのは昭和六十年四月のことだった。

佐藤さんに六十年度（六十年四月～六十一年三月）の黒埼荘の利用状況を聞いてみた。

黒埼荘（浴場）

昭和六十年一か年間の温泉入湯者は三万九千二百十四人である。ちなみに大正元年の入湯者は一万二千二百人である。月別では一月、二月、十月の三か月は団体客が少なく、反対に土用十八日間（内三日休み実質十五日）の入湯者は四千七百二十八人と一日三百十五人の人が土用湯治に訪れている。

湯治客は平日は半分くらいが湯治をすませるとすぐ帰りほかは夕方近くまでいる。また、土用のころは、開湯と同時に朝暗いうちに来る人や、出勤前に入湯する人、入湯だけですぐ帰る人が多い。

年間約四万人の利用者のうち、本町の人が約八割を占め団体では老人会がいちばん多く、次が婦人会である。町外では、新潟市（松浜、天野、曽野木、内野など）や郡内の中の口村、巻町、味方村、また白根市などからもきている。

一年間一日も休まず来る人が五十人もいるそうで、その一人で九十三歳の広川翁（新潟市亀貝）は「もし三日も緒立の湯に入らなければ、体が動かなくなるのではと心配だ。それで休まずにきている」と話している。

緒立温泉の効能について聞いてみると次のような答である。「リウマチや神経病によい」「傷や手術の回復によくきく」「入浴を続けていると風邪をひかない」「たしかに体によいようだ」。

また、坂井輪からきたという男子高校生は、スポーツで足を痛め病院に通ったが一向によくならなかったため、人に勧められてここで湯治している。日がたつにつれ回復してきていて、自分でも驚いている」と話してくれた。

執筆・宮田栄門

（以下次号）